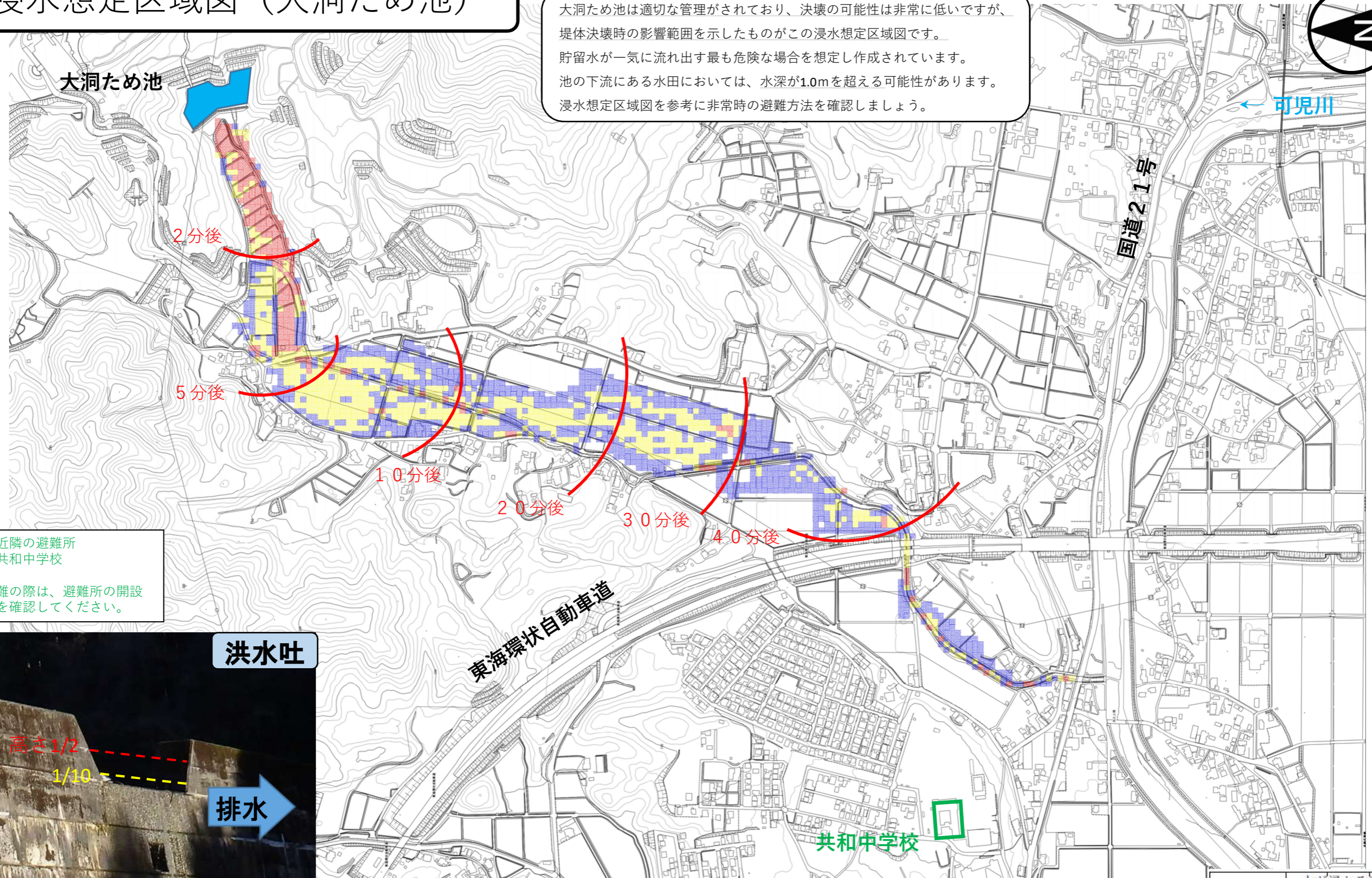


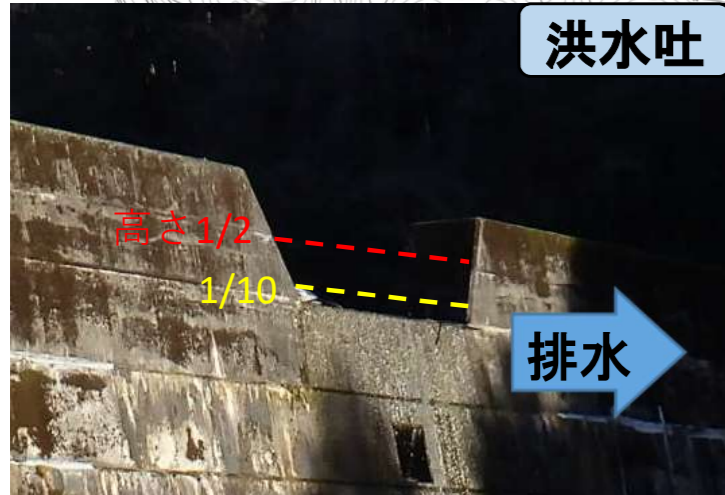
浸水想定区域図（大洞ため池）

大洞ため池は適切な管理がされており、決壊の可能性は非常に低いですが、堤体決壊時の影響範囲を示したものがこの浸水想定区域図です。貯留水が一気に流れ出す最も危険な場合を想定し作成されています。池の下流にある水田においては、水深が1.0mを超える可能性があります。浸水想定区域図を参考に非常時の避難方法を確認しましょう。



□ 近隣の避難所
・共和中学校

※避難の際は、避難所の開設状況を確認してください。



ため池管理水位

大洞ため池において農閑期には、低水位管理を行うことで地震による決壊被害を小さくできます。大雨や台風通過が予測される際には、事前に水位を下げておくことで越水や決壊のリスクを小さくできます。

大洞ため池 管理状況	ため池上流域について
<ul style="list-style-type: none"> 草刈り：年1回 草刈り時に堤体及び施設の点検（ため池管理アプリや点検チェックシートによる） 	上流域には、直接ため池に影響を及ぼす要因はありませんが、浸水想定区域の一部において、土砂災害特別警戒区域と重なっているエリアがあるため注意が必要です。
<ul style="list-style-type: none"> 管理手法について ため池管理マニュアル⇒ 	

ため池諸元	
大洞ため池	貯水量 14千m ³ 堤高 8.8m 洪水吐形式 水路流入型 改修歴 昭和55年度

歩行困難度判定	水が浸かる深さ	
	浅い	深い
遅い 水が流れる速さ	0.5m/s	1.0m/s
	可能	危険
速い	困難	危険